

附属図書館第二期(平成22年度～平成27年度)中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
＜附属図書館としての基本的な目標＞ ◎大学の第一の使命は人間の育成にある。世界水準の人材育成システム構築の中で、学士課程教育、大学院教育との連携を図り、学生の自立的な学習の支援を行う。 ◎学術研究を推進する上で必要とする、多様な学術情報の迅速かつ的確な入手について、研究主導型の基幹総合大学として世界水準の研究を推進するための、基盤的な学術情報環境の整備を行う。 ◎学内で生み出される論文などの学術情報を電子コレクションとして構築し、図書館を通して大学の教育研究成果を社会に向けて発信する。 ◎大学の地域貢献の一環として、多様な蔵書、貴重な図書などの電子化を推進することにより、市民、社会人の生涯学習の支援を行う。	
1 教育支援に関する目標 (1)学生の自学自習の支援の充実	1 教育支援に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1)シラバス掲載図書はもとより、「学士力」をはぐくむとともに、広い視野と教養を備えた高度な専門職業人を養成するための基盤となる図書等を体系的に整備する。 (2)図書選定小委員会を中心に蔵書構成の質・量を評価し充実を図る。 (3)体系的な情報リテラシー教育支援を実施する。また、その一環として「学士力」の基礎としての情報活用力・生涯学習力を学生に獲得させるため、ネットワーク及びパソコン等の情報環境を整えた、ラーニングセンターを設置する。 (4)夜間・休日開館時のサービスの拡充を図る。 (5)教育に関する委員会等との連携を図り、教育支援機能を強化する。

(2)留学生への図書等の充実	(1)留学生のためのビデオ、図書等の整備を行う。
2 研究支援に関する目標 (1)学術研究コンテンツの整備の推進	2 研究支援に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1)電子ジャーナル、学術文献データベースの利用水準を維持する。 (2)電子ジャーナル、学術文献データベース等の利用方法についての講習会を充実させる。
(2)特殊コレクション等の整備の推進	(1)研究者と連携して、北方関係資料を含むコレクションの計画的な収集を行う。
3 社会貢献・その他に関する目標 (1)教育研究成果の社会への発信の強化	3 社会貢献・その他に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1)教育・研究成果を電子的に収集・保存し、インターネットを介して発信する「北海道大学学術成果コレクション(HUSCAP)」を充実し、全教員の参加を実現することにより、本学の教育研究成果の社会への還元に寄与する。また、HUSCAPの対象として学内でまとめられる科学データ類の登録拡大について試行する。
(2)貴重図書等の公開の推進	(1)展示会等を通じて本学所蔵図書等を紹介する。
(3)所蔵資料へのアクセスの改善	(1)図書目録遡及入力を推進し、すべての蔵書についてOPACで検索可能とする。 (2)北方関係資料や貴重資料の電子化を推進し、インターネットにより社会に公開する。
(4)業務改善 ①職員配置の適正化と資質向上の促進 ②全学図書館・室の連携強化	①担当業務を選択可能とすることや担当学問分野の明確化等を通して、個々の職員の適性に合わせた資質向上を促進する。 ②全学の図書館・室の連携を強化し、限られた人員でのサービス向上を図る。
(5)財務内容の改善 ①外部資金の獲得の推進	①「科学研究費補助金」等幅広く外部資金の獲得に努める。

(6)点検・評価 ①点検・評価の実施及び公表	①利用者の満足度調査を含む外部評価を実施し、結果を広く公開する。
(7)施設設備の整備 ①学習環境の改善	①本館の改修を機に、学習環境の改善を図る。 ②学習環境を改善するために、閲覧机、椅子、情報機器等学習に必要な設備の更新を行う。
(8)図書館資料の保存 ①効率的な保存 ②劣化対策等の実行	①電子的なアクセスを確保しつつ、全学的な観点から効率的な図書の保存を行う。 ②帙のない和装本について帙を作成する等、貴重資料、古典資料について保存に必要な対策をとるとともに、資料の劣化対策を講じる。
(9)学外連携 ①道内機関との連携	①機関リポジトリ運営について、担当者講習会を実施するなど道内大学における共同事業を推進する。
(10)広報機能の強化 ①ホームページの充実 ②英語版ホームページの充実	①図書館ホームページの見直し・改訂を行い充実させる。 ②英語版のページを増加させ充実させる。
(11)情報環境の整備 ①学術研究コンテンツ利用環境の整備 ②電子認証への対応	①電子認証基盤の整備に合わせて電子ジャーナル等の学術研究コンテンツ利用環境を整備する。 ②図書館の各種システムを電子認証へ対応させる。